

沖縄型金型

<15>

芽吹く技術

企業に聞く ①

械メーカーの渋谷工業（金沢市）が2013年8月に、うるま市に工場を設立

100億円規模の生産拠点に

飲料や調味料などの液体を容器に充填する装置「ボトリングシステム」などの製造を手掛ける産業機



渋谷 弘利社長
渋谷工業（金沢市）

する。東証1部に上場するに注目した」

大手企業の沖縄進出に県内関係者の期待も大きい。生産拠点として沖縄に注目した理由や事業計画などについて渋谷弘利社長に話を聞いた。

「沖縄を生産拠点とする

「半導体製造装置などで韓国製や台湾製が出てきて、コスト面の国際競争力が落ちていた。コストを抑える生産拠点として2〜3年前から沖縄を検討してきた。その間にうるま市のO

生産型。これまでに2100件の特許を取得、申請している。世界のトップを走る技術と品質で製品作りを取り組んできた。海外でその技術や知識を教え込むには指導する人員も時間もかかってしまう。海外では品質保証の問題も出てくる」

制度を活用し、さらにコストの低減化につなげたい。台湾など海外から部品を仕入れ、海外向けに輸出する。その中で生産を沖縄に移す機種も増えてくるかもしれない」

「今、超円高で日本のあらゆる企業が国際的な競争で厳しい状況にさらされている。われわれもどうコストを下げるかが大きな命題となっている。さまざまな方法でコスト削減に取り組んできたが追い付かない。そこで沖縄の人工費の低さが、われわれの製品は受注

「中国など人工費は安い

「関税がかからない保税

狙いは。

「今、超円高で日本のあらゆる企業が国際的な競争で厳しい状況にさらされている。われわれもどうコストを下げるかが大きな命題となっている。さまざまな方法でコスト削減に取り組んできたが追い付かない。そこで沖縄の人工費の低さが、われわれの製品は受注

MJPを子会社化し、経済特区の利点などを勉強した。実際にOMJPで生産して、コストが20〜25%低減できることがはっきりした。その効果でまた競争力が出てきた」

「海外という選択肢は。中国など人工費は安い

「関税がかからない保税

「今、超円高で日本のあらゆる企業が国際的な競争で厳しい状況にさらされている。われわれもどうコストを下げるかが大きな命題となっている。さまざまな方法でコスト削減に取り組んできたが追い付かない。そこで沖縄の人工費の低さが、われわれの製品は受注

MJPを子会社化し、経済特区の利点などを勉強した。実際にOMJPで生産して、コストが20〜25%低減できることがはっきりした。その効果でまた競争力が出てきた」

「海外という選択肢は。中国など人工費は安い

「関税がかからない保税

「今、超円高で日本のあらゆる企業が国際的な競争で厳しい状況にさらされている。われわれもどうコストを下げるかが大きな命題となっている。さまざまな方法でコスト削減に取り組んできたが追い付かない。そこで沖縄の人工費の低さが、われわれの製品は受注

MJPを子会社化し、経済特区の利点などを勉強した。実際にOMJPで生産して、コストが20〜25%低減できることがはっきりした。その効果でまた競争力が出てきた」

「海外という選択肢は。中国など人工費は安い

「関税がかからない保税

「今、超円高で日本のあらゆる企業が国際的な競争で厳しい状況にさらされている。われわれもどうコストを下げるかが大きな命題となっている。さまざまな方法でコスト削減に取り組んできたが追い付かない。そこで沖縄の人工費の低さが、われわれの製品は受注

MJPを子会社化し、経済特区の利点などを勉強した。実際にOMJPで生産して、コストが20〜25%低減できることがはっきりした。その効果でまた競争力が出てきた」

「海外という選択肢は。中国など人工費は安い

「関税がかからない保税

「今、超円高で日本のあらゆる企業が国際的な競争で厳しい状況にさらされている。われわれもどうコストを下げるかが大きな命題となっている。さまざまな方法でコスト削減に取り組んできたが追い付かない。そこで沖縄の人工費の低さが、われわれの製品は受注

MJPを子会社化し、経済特区の利点などを勉強した。実際にOMJPで生産して、コストが20〜25%低減できることがはっきりした。その効果でまた競争力が出てきた」

「海外という選択肢は。中国など人工費は安い

「関税がかからない保税

「今、超円高で日本のあらゆる企業が国際的な競争で厳しい状況にさらされている。われわれもどうコストを下げるかが大きな命題となっている。さまざまな方法でコスト削減に取り組んできたが追い付かない。そこで沖縄の人工費の低さが、われわれの製品は受注

MJPを子会社化し、経済特区の利点などを勉強した。実際にOMJPで生産して、コストが20〜25%低減できることがはっきりした。その効果でまた競争力が出てきた」

「海外という選択肢は。中国など人工費は安い

「関税がかからない保税

「今、超円高で日本のあらゆる企業が国際的な競争で厳しい状況にさらされている。われわれもどうコストを下げるかが大きな命題となっている。さまざまな方法でコスト削減に取り組んできたが追い付かない。そこで沖縄の人工費の低さが、われわれの製品は受注

MJPを子会社化し、経済特区の利点などを勉強した。実際にOMJPで生産して、コストが20〜25%低減できることがはっきりした。その効果でまた競争力が出てきた」

「海外という選択肢は。中国など人工費は安い

「関税がかからない保税